

# INAHO FARM 通信 2024 年 11 月

今年の沖縄は夏も暑かったですが、10月もなかなか気温が下がらず、適度な雨もあるので草の生育の面では助かっています。あっという間に今年も残り2か月ですね。商売も広がってとても有難いのですが、人手が足りず手一杯。「心」を「亡くす」と書いて「忙しい」と言います。忙しくなってはいけないのですが、ひたすら業務に追われるような働き方になり心に余裕が無くなってしまっているのは問題があります。ずっと続いていく酪農の形を追求する上で、やはり最も大事なものは牛よりも何よりも、働く「人」が心豊かに健康体であるかということだと思ふからです。そのために、仕事量とスタッフのバランス、日々の業務内容の見直しなどを整えていかななくてはいけないなと強く思うこの頃です。店舗も早く持ちたい！ということで、引き続きスタッフを募集しています。製造をやってみたい！販売員をやりたい！などのご応募もお待ちしております。

## <2024/11/1 現在の飼養頭数>

### ○ジャージー種 12 頭：

搾乳牛 4 頭（アイナ、アユ、アコ、デイゴ）

乾乳牛 3 頭（チッチ、エマ、リンリン）

育成牛 4 頭（シュギモー、伊予、ウィッシュ、ベル）

雄子牛 1 頭（大福）

### ○交雑種（ジャージー種×黒毛和種）3 頭：

（ココア、ホセ、バンシルー）

## ・デイゴの搾乳に苦戦しながらも。

9/17にお産をしたデイゴ、搾乳に慣れてもらうのにこれまでで一番時間がかかりました。搾乳を始めてしまえばわりと大人しくしてくれてくれるようになったのですが、自分から搾乳場へ入ってきてくれるまでに、1ヵ月強かかりました。毎回頭絡(ロープ)を付けて引っ張っていたのですが、次第に頭絡も形式的なものになり、今では先輩のエマにくっついて一緒に搾乳場へ入ってきてしまいそうなくらいすんなり動いてくれるようになりました。

ということは、つまり私たち人間に閉じ込められて搾乳されるということに対して心を許してもらえたということ。普段接するときも以前より良く懐いてくれるようになり、信頼関係が厚くなっていることをはっきりと感ずることが出来ます。これが一つ、初産の牛と付き合う上での醍醐味でもあります。我々の接し方や搾乳技術によって、



# INAHO FARM 通信 2024 年 11 月



(我々にとって)良い牛にも、悪い牛にもなり得るからです。牛それぞれ性格の個性はあるので、本当に扱いが難しい牛もいるにはいるのだと思いますが、「牛が搾乳場へ入ってきてくれない」や「搾乳中に暴れる」などといったことが続く場合には、基本的には飼い主側に改善すべきことがあると思って接し方や設備・手順などを見直していく必要があるのではと思っています。

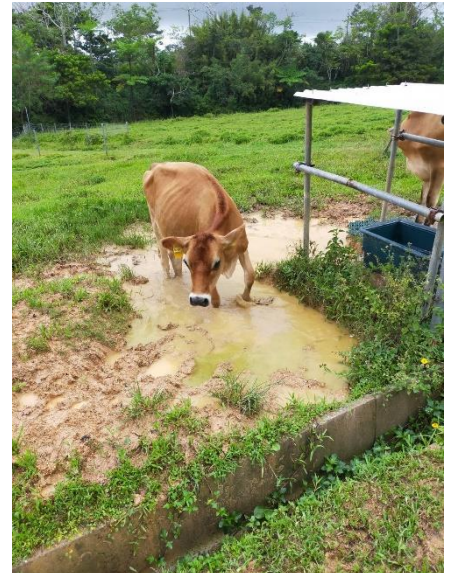
酪農家が避けては通れない乳房炎に関しても、基本的には同じ考え方になるかと思います。「なぜ」を考え、検証して実践を通して理解していく過程がとても意味のあることで、先にマニュアルで答えだけを与えられてただその通りにやればよい、であったり、薬に頼って殺菌してしまえば大丈夫という解決策であったりしては、いつまでも本質

に辿り着くことはできません。自分の頭で考えないと。今はもう、人ではなくても AI ですら「自分で考える」ことができるようになってきている時代です。うちではもう 1 年ほど、乳房炎とは無縁になってしまいました。乳頭の殺菌などしていませんし、教科書的には正しくないと言われるような搾乳方法であるにも関わらず、です。

でも色々考えるけど、結局一番肝心なところは論理では説明しきれない「心」の部分だったりする。そんなことを牛との付き合い方を通して感じる日々で、だから私は酪農を続けていきたいと思うのです。

## ・水飲み場の泥濘箇所を整備しました。

製造販売に手一杯で牧場の整備が行き届かないということは、好ましくありません。放牧地の水飲み場も、気付いたら土が大きく削り取られて水たまりになってしまっていました。牛たちも、ここに足を踏み入れて水を飲みに行かなくてはならないのはちょっと嫌そうでした。暫く雨続きでなかなか晴れが続かず作業に入れなかったのですが、ようやく今月、砂と土を軽トラで何台分も運び入れ、均すことができました。これでしばらくは大丈夫かなとは思いつつ、牧場全体の水はけ改善は、少しずつでもどんどん進めていかなければいけません。すぐには目に見えて結果が分かりにくいかもしれないこの土壌改善こそが、未来の放牧地や山の保全にとってはとても大事なことです。わかっているけど、後回しになってしまいます。



# INAHO FARM 通信 2024 年 11 月

## ・採草地を整備して種まきをしました。

10 月は、年に 2 回行っている牧草種まきの季節です。晴れが続いた日にトラクターで土を耕しておき、雨の降る前日に種まきをしました。天気が読めない中でタイミングをよく見計らって取り掛かる必要があるのですが、なかなか難しい。今回は、採草地として 2 区画を整備し、暖地型牧草であるバラグラスの青刈りを苗としてすき込み、また寒地型牧草のトールフェスクや白クローバーの種を手撒き・鎮圧しました。日当たりがあまり良くない区画でもあったので、播種前にはユンボやチェーンソーで高木の伐採もしました。このほか放牧地の中にも牧草の種を手撒きし、牛を入れて踏みつけてもらった区画もあります。

本当はもっと広い面積を整備したかったのですが、そこまで時間が確保できず。全部中途半端になるくらいなら、1 回に整備する面積は狭くても毎年着実に自給の青草が増えていった方が良いなど。また春の種まきに向けて、冬の間土地の開拓整備を進めたいと考えています。これから約 2 ヶ月、牧草の生育を楽しみに観察していきます。冬の餌が少しでも多く賄えますように。



## ・10 月から新しい仲間が増えました。



実は、10 月から地元名護出身の女性スタッフ濱田さんが新たに仲間入りしました。来年 3 月までの短期アルバイトという形ではありますが、搾乳や牧場整備、そして移動販売などを一緒に行っています。これまで夫婦二人のみで突っ走ってきて限界が見えていたので、ヤギを飼育されていて動物の扱いにも慣れている頼もしいメンバーの加入にとっても助けられています。今まで最も手が回っていなかった放牧地の整備も行き届くようになり、牛にとっても良いことです。11 月からは、より本格的に濱田さんにも戦力として頑張ってもらいますので、皆さまどうぞよろしくお願いいたします。酪農女子、頼もしいです。

# INAHO FARM 通信 2024 年 11 月

・ワトソンを出荷し、約 10 か月ぶりに冷凍パック肉として販売中です。

草が少なくなっていく本格的な冬場を迎える前に、頭数過多にならないよう調整していきたく、最近は毎月のように屠畜をしています。10月に屠畜した10か月齢のワトソンは、驚くくらい温厚でよく懐いてくれました。今回は久々に今帰仁のお肉屋さんのお力を借りて一般家庭でも食べやすいパック肉に加工してもらいました。牧場ホームページから購入できますので、ぜひうちのお肉も多くの方に味わっていただきたいです。



・うるマルシェに島ヨーグルトが入りました！

10月下旬から、うるま市のうるマルシェでも島ヨーグルトをお取り扱い頂けることになりました！今のところ売れ行きもとても良く、県内の方にたくさん手に取ってもらえているということが嬉しいです。ヨーグルトは最も製造に手間がかかっているのですが、正直増産は結構な負担にはなるのですが、県内の売れ行きが伸びているというのは本当に嬉しい悲鳴です。本島で単一牧場によるヨーグルトは唯一INAHO FARMのみ。沖縄に、こんなにおいしいヨーグルトがあるんだぞっていうことを、もっともっと知ってもらいたいです。

(文・佐藤貴之)